

ウーテ シュトラウブ

経歴概要

移住背景のない「平均的な」ドイツの家庭に生まれた身として、最も面白い国外体験はイギリスにおける3週間の言語講座でした。これは、1977年に教育学修士を修了してから、



画期的に変わりました。冒険を求めるために、2年間に渡って西アフリカでボランティアしました。今日に至るまで自分像に莫大な影響を与えてきた各種の新植民地主義的な体験に直面しました。

ドイツ帰国後、様々なSW分野で働きました。例えば、トルコからの若い移民、障がいをもつ若者、メディア教育（コミュニティにおけるオープン・アクセスのテレビ）、広報が含まれました。フェミニストのグループで活動して1980年代初頭に女性シェルターを作り、今でも関わっています。同時に、『NGO及び女性運動の制度化』に関する博士論文を執筆し始めました（1987年に博士号）。二人の子どもがいたため、家庭とキャリアの両立をより推進できる目的で学者職に応募し始めました。1997年に、フランクフルト・アム・マイン応用学問大学において終身雇用資格を得ました。教育テーマは、ソーシャルワーク理論と方法、ジェンダー問題、国際ソーシャルワークです。在職学科の国際コーディネーターであり、1年に2回以上国外の連携大学で講義しており、現在はドイツ・ソーシャルワーク協会において国際SW部門を設立中です。

IASSW ビジョン声明

IASSW の社会・政治的な公約に完全に賛同しています。ソーシャルワーク教育を始めて以来、自分たちの専門職を弁護し、公的に専門性を示し、今日的な緊急課題に大いに貢献できる専門職としてソーシャルワークを理解するように学生に働きかけてきたつもりです。国際的なアンブレラ組織が枠組みと支援をしていることは学生を指導する上で助かります。個人的な事情が許すようになったので、IASSW の活動への貢献することが私にとって必然的な結論です。ドイツにおける政治的な活動、特に女性及び環境運動への関わりの相応しい続きにもなり得ます。

様々な委員会における継続中の議論についてまだ詳しくなく、答えよりも聞きたいことの方が多いです。

2012 年と 2016 年の間の期間に関するグローバルアジェンダに明記されている取り組みの 4 つの焦点について、グローバルな経済発展が優先されることが極めて重要であると考えます。なぜならば、これらは平等、人々の尊厳と価値をもたらす上で最も強い影響力をもち、かつ環境の持続可能性と共に人間関係の重要性の容認に向けた闘いの基盤を作るからです。現在交渉中の自由貿易協定は透明性と社会的な視点を欠いているが (TTIP や TPPA を参照)、消費者、農家、環境、知的財産に影響を及ぼすこととなります。どのようにしたら、IASSW がもつ世界貿易機関及びその他のグローバルな経済機関との関係を強化できるでしょうか。

強調したいもう一つの課題は教育と養成に関連します。どのようにしたら、SW の新しい国際定義の最終案に追加された内容を教育実践に移せるでしょうか。どのようにしたら、ソーシャルワークにおける北半球と南半球・インディジナス・地域特有のアプローチの間に実りのある交流と双方向の刺激を支援できるでしょうか。

第三の従事したいテーマは、IASSWにおける各校の代表性に関するより良いバランスの促進です。南半球に属する諸国を巻き込むような努力がなされてきたことは承知していますが、格差をなくす必要性を、特に南アメリカとアフリカ諸国についてまだまだ感じています。IASSW 理事会における執行理事に選ばれば、これらの課題に喜んで取り組みたいと思います。